

# 大地震想定「命を守る行動を」

## 竹田、白杵で避難訓練

【竹田・白杵】東日本大地震が発生した11日を前に、竹田市や白杵市で10日、避難訓練があった。

▽竹田市直入小（田崎公治校長、79人）授業中に大きな地震が発生したとの想定で、児童は姿勢を低



グラウンドに避難する児童Ⅱ  
10日、竹田市直入町の直入小

くして頭を守った。揺れが収まると、素早くグラウンドに移動。田崎校長が「地震発生から津波到達までに高台やビルに逃げる時間はある。自分の命を守る行動を考えて」と述べた。訓練後に「3・11集会」



エアテントの設営訓練をする参加者Ⅱ  
10日、白杵市の白杵公園グラウンド

を開き、1〜3年生39人が地震発生時の対応をまとめた動画（約10分）を披露。災害への備えとして「家族で避難ルートを確認し、3日分の食料などを詰めた非常袋を作っておく。大人の言うことを聞き、落ち着い

て行動しよう」と呼びかけた。

動画を作ったメンバーの一人、工藤志織さん（9）Ⅱ3年Ⅱは「東日本大震災は生まれる前に起きたが、忘れてはいけない出来事」と話した。（原田宏一）

▽白杵市中心部 南海トラフ地震を想定した合同避難訓練があり、地元の小学生や住民ら約700人が参加した。

午前10時ごろ、震度6弱の揺れを観測した1との想定。それぞれの学校や家庭で机の下などに身を隠す「シェイクアウト訓練」をした後、避難所に指定されている海抜約19分の白杵公園に移動。20分ほどで避難を完了した。

エアテントの設営訓練や防災資機材の展示などもあり、参加者はアースを回って使用方法などを学んだ。合同避難訓練は2014年から実施。主催する市中央地区振興協議会の福田和民会長（79）は「住民の参加率低下が課題。自分の身を自分で守るために積極的な参加を呼びかけたい」と話した。

（衣笠由布紀）

